マラソン・BPMC乳剤

マラバッサ乳剤

成分:マラソン〔有機リン系 PRTR・1種〕30.0% B P M C 〔カーバメート系 PRTR・1種〕40.0% その他 PRTR 該当成分:

キシレン [PRTR・1 種] ··········14.5% 〈8.5~15.3%〉 エチルベンゼン[PRTR・1 種] ·········2.5% 〈1.7~8.5%〉 取扱メーカー:

協友アグリ,一農,琉産

原体メーカー:

住友化学, 住友化学・日農

性状:淡黄褐色可乳化油状液体

毒性:劇物

消防法:第4類・第2石油類(非水

溶性)・危険等級Ⅲ

- ●マラソン乳剤、バッサ粉剤30 D L の項参照。
- ●薬剤抵抗性のついたツマグロヨコバイにも防除 効果を示す。
- ●低温時でも効果が安定しているので,早春期散 布や秋散布にも適する。
- ●ミナミキイロアザミウマの成幼虫に対して, 効果がある。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一 覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- ●ヒメトビウンカ(編葉枯病)には越冬幼虫から 第2世代の幼虫・成虫時期に散布する。
- ●ツマグロヨコバイ (黄萎病) には越冬幼虫から 第1世代幼虫期に散布する。
- ツマグロヨコバイの直接吸汁加害には穂ばらみ 期の幼虫を中心に他の害虫と同時防除する。
- ●セジロ,トビイロウンカに対しては,第2回成 虫の飛来が多い場合は,飛来期と第2世代幼虫中 心に防除し,通常発生の場合は,第3世代幼虫を 中心に防除する。
- ●ミナミキイロアザミウマの防除に使用する場合、生育密度が高まると効果は劣るので、初発生を見たら直ちに散布する。なお、本剤は卵、蛹に対する効果は劣るので、約1週間間隔で2~3回繰り返し散布する。繁殖が早いので、散布はかけ残しのないよう丁寧に行う。

〈常温煙霧〉

- ●専用の常温煙霧機による所定の方法で行う。
- ●作業はできるだけ夕刻に行い,作業終了後,6時間以上密閉する。できれば翌朝までそのままとし、開放後十分換気して入室する。

【薬効・薬害等の注意】 …………

- ●石灰硫黄合剤,ボルドー液などアルカリ性薬剤 との混用はさける。
- ●施設内における高温時の散布は、薬害のおそれがあるのでさける。
- ●適用作物 (野菜,きく) の薬害などの注意は「薬 害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】 ……………

- ●付近に桑園がある場合はかからないよう注意する
- ●共通注意事項7. ミツバチに対する注意事項を 参昭。
- ●甲殻類に影響を及ぼすので,使用時並びに使用 後も注意。
- ●魚類に低濃度でも影響を及ぼすので注意。
- ●蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはか からないようにする。













作物名	適用害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	マラソンを含む農 薬の総使用回数	BPMCを含む農 薬の総使用回数
みかん	チャノキイロアザミウマ アブラムシ類	1000倍	200 ~ 700 ℓ	30日前 まで	5回		5回以内	5回以内
	ウスカワマイマイ	600倍		X (
稲	ツマグロヨコバイ ウンカ類 アザミウマ類	1000倍	60 ∼ 150 ℓ	7日前 まで	以内			
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ	1500~ 2000倍		前日まで				
なす	ミカンキイロアザミウマ アブラムシ類	1500倍		3日前 まで			6回以内	
きゅうり	ミナミキイロアザミウマ	1500~ 2000倍 1500倍	100 ∼ 300 ℓ	前日まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内
	ミカンキイロアザミウマ アブラムシ類							
すいか	ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	1500~ 2000倍					6回以内	
メロン							3回以内	4回以内
たまねぎ	・ネギアザミウマ	800~ 1000倍		7日前 まで			6回以内	3回以内
葉たまねぎ	4479573	1000倍		21日前 まで			3回以内	
きく	アザミウマ類 アブラムシ類	1500倍		開花期 まで	6回 以内		6回以内	6回以内

作物名	適用場所	適用害虫名	10 a 当り		使用時期	本剤の	使用	マラソンを含む農	BPMCを含む農	
			使用量	使用液量	(収穫前)	使用回数	方法	薬の総使用回数	薬の総使用回数	
ピー	マン	温室,ガラス室, ビニールハウス 等の密閉できる 場所	ミナミキイロアザミウマ	100 mℓ	4 ℓ	7日前 まで	3回以内	常温煙霧	5回以内	3回以内